

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		feel小久保(多機能型事業所 児童発達支援)				公表日	2026年2月25日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室などのスペースとの関係で適切であるか。	100.0%	0.0%	ガイドラインに沿った支援室を使用し、発達支援を行っている。	継続していきます。	
	2	利用定員やこどもの状態などに対して、職員の配置数は適切であるか。	100.0%	0.0%	こどもの状態に応じて、個別対応を行うことができるよう、余裕を持った人員配置を行っている。発熱した子どもがいる場合は、別室で過ごせるように人員を調整している。	継続していきます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備などは、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達など、環境上の配慮が適切になされているか。	100.0%	0.0%	・子どもの様子に合わせて環境調整を行い、食事や課題に集中できるスペースを設定している。 ・来所時の準備が視覚的にわかるよう、絵カードなどを用いている。 ・子どもが自分で玩具を片付けやすいようにスタッフが環境整備をしている。	・使用頻度の低い玩具について見直しをし、活動空間に余裕を持たせていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100.0%	0.0%	適切な温度や湿度が保てるよう、気温に合わせてエアコンや加湿器、除湿器を使用している。加湿器や除湿器は毎日簡易的に清掃を行い、月に1回消毒を行っている。	夏と冬の半期に1回よりも高頻度にエアコンのフィルターの清掃を行う。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100.0%	0.0%	必要に応じてパーティションで空間を区切ることで、課題や活動に集中できるようにしたり、クールダウンができたりするようにしている。 ・身体を思い切り動かせるように外遊びを取り入れている。 ・状況に応じて簡易的な段ボールのパーティションを取り入れることで、小さな落ち着いたスペースを作っている。	個別対応ができるスペースについてミーティングなどで周知することで、全ての職員が適切に環境調整ができるように留意していきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100.0%	0.0%	気付いたことや難しいと感じたことに対して目標を設定し、振り返りの機会を設けることで業務改善を図っている。	継続していきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者などの意向などを把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100.0%	0.0%	年に一度保護者に評価アンケートを配信することで、保護者の意向や意見を確認している。	継続していきます。	
	8	職員の意見などを把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100.0%	0.0%	・毎日のミーティングで職員同士の意見交換を行っている。特に新人職員についてはメンター制度を用いて、相談しやすい環境づくりを行っている。 ・月に1回、スタッフ全員での教材紹介の時間を設け、ロールプレイを行ったり、教材の目的や利用の仕方を伝えあっている。	継続していきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100.0%	0.0%	あかし療育図鑑などの市の取り組みに参加し、外部からの評価を得た上で業務改善に反映できるように努めている。	継続していきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内などで研修を開催する機会が確保されているか。	100.0%	0.0%	年10回以上の内部研修やチームビルディング、教材研究会を実施したり、職員の興味関心に合わせて業務時間中に外部研修を受講する機会を設けることで職員の資質の向上に努めている。	継続していきます。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100.0%	0.0%	作成の上、HPにて公開している。普段の療育の内容については連絡アプリやInstagramなどで発信をしている。	継続していきます。	

12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100.0%	0.0%	発達検査や知能検査、S-M社会能力検査、行動観察からアセスメントを行い、子どもや保護者のニーズを反映した支援計画を作成している。	継続していきます。
13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100.0%	0.0%	原案作成時に会議を行い、担当職員を中心に意見を出し合って支援計画について検討を行っている。	継続していきます。
14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100.0%	0.0%	保護者との会議の後、支援計画についてミーティングで周知し、個別ファイルに挟むことで都度支援計画に沿った支援が提供できるように留意している。	継続していきます。
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用するなどにより確認しているか。	100.0%	0.0%	保護者の希望に応じて新版K式検査2020やWISC-V、S-M社会生活能力検査を実施したり、普段の様子について毎日のミーティングで振り返ったりすることで多面的に子どもの状況を理解できるようにしている。	継続していきます。
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100.0%	0.0%	ガイドラインに沿って支援計画を作成し、保護者の意向やこどもの発達段階に応じた目標や支援内容を設定している。	継続していきます。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100.0%	0.0%	SST、運動遊び、英語音楽、制作、クッキングで各担当者を2名以上設定し、プログラムの立案を行っている。また、ミーティングにて共有し、注意点などを確認し合いながら実施している。	継続していきます。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100.0%	0.0%	二週間でプログラムを変更して固定化しないようにしている。また、事業所間でプログラムを共有し、必要に応じて取り入れている。	継続していきます。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100.0%	0.0%	支援計画作成前後に限らず、都度保護者と子どもの状況を共有しながら、個別療育や集団活動の目標を設定している。	継続していきます。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100.0%	0.0%	当日実施するプログラムや予想される子どもの反応などを、事前のミーティングで話し合いを行っている。	継続していきます。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点などを共有しているか。	100.0%	0.0%	毎日のミーティングで上手くいった支援や気付いた点について話し合い、共有している。	継続していきます。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100.0%	0.0%	日々の様子を記録に残したり、支援内容やその後の反応についてミーティングで話し合ったりすることで支援方法の検証や改善に努めている。	継続していきます。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100.0%	0.0%	半期に一度モニタリングを行い、支援計画の達成度や見直しについて検討の上、次の支援計画の作成に役立っている。	継続していきます。
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100.0%	0.0%	児童発達支援管理責任者と共に、子どもの個別療育担当職員も会議へ参加し、子どもの様子や課題について情報共有を行っている。	継続していきます。
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関など）、障害福祉、保育、教育などの関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100.0%	0.0%	保護者の希望があれば保育所など訪問支援へ繋げたり、関係機関連携などを実施したりすることで、連携して支援できる体制を整えている。	継続していきます。
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)などの間で、支援内容などの情報共有と相互理解を図っているか。	100.0%	0.0%	保育所などでの生活を中心に考え、無理のないように利用することができるように案内をしている。保護者の希望があれば支援内容について情報共有を行ったり、検査の結果についての説明を保育所などへ伝えたりして相互理解を図ることができるように働きかけている。	継続していきます。
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容などの情報共有と相互理解を図っているか。	100.0%	0.0%	・保護者の希望があれば療育での様子をまとめたものを作成し、共有を行っている。 ・就学相談の研修を年に2回行っている。 (春：年長向け) (冬：年中向け)	継続していきます。
	(28～30は、センターのみ回答)	100.0%	0.0%		

関係機関や保護者との連携	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所などと連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組などを行っているか。	100.0%	0.0%		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関などから助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	100.0%	0.0%		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議などへ積極的に参加しているか。	100.0%	0.0%		
	31	(31は、事業所のみ回答)	100.0%	0.0%		
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言などを受ける機会を設けているか。	100.0%	0.0%	子ども部会などへ参加することで、児童発達支援センターとの関係性作りに努めている。また必要に応じて、子どもの様子について情報共有を行っている。	今後も研修を受講すると共に、必要に応じてスーパーバイズや助言をいただきたく思います。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園などとの交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	100.0%	0.0%	・小久保・小久保Ⅱ事業所で秋祭りを開催し、近隣に住んでいるお子さまやご家庭を招待することで交流や活動の機会を設けた。また公園遊びなどでは地域の方々と同じ場でルールを守りながら遊ぶ機会を設けている。 ・今年度はまちゼミに参加し、明石市の地域活性化に携わった。	継続していきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100.0%	0.0%	連絡帳のコメントや送迎時を通して、保護者と子どもの状況を伝えあうように努めている。	継続していきます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングなど)や家族などの参加できる研修の機会や情報提供などを行っているか。	100.0%	0.0%	4事業所持ち回りで、学期に一度開催している。2025年は就学相談について、子育て支援についてのペアレントトレーニングを実施した。	継続していきます。	
保護者への説明など	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担などについて丁寧な説明を行っているか。	100.0%	0.0%	最初の契約時に、支援計画の説明、利用者負担などについて説明をしている。変更があった際には、その都度説明し、同意を得ている。	継続していきます。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100.0%	0.0%	モニタリングや初回契約の聞き取りの際に支援計画作成にあたっての子どもや保護者の意向を聞き取る機会を設けている。	継続していきます。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100.0%	0.0%	契約の際や支援計画の更新の際に必ず面談を実施し、支援計画について同意を得た後に支援に取り組んでる。	継続していきます。
	38	定期的に、家族などからの子育ての悩みなどに対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100.0%	0.0%	・月に1度、連絡帳のコメントでご相談されたことや相談の時間が取れる旨をお伝えしている。 ・半期に一度、育児の負担度を聞き取っている。また、子どもの様子や連絡帳のコメント、玄関先でのお話の様子などを鑑みながら面談の案内をしたり相談に応じたりしている。	継続していきます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会などを開催するなどにより、保護者同士で交流する機会を設けるなどの支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設けるなどの支援をしているか。	100.0%	0.0%	保護者研修後に保護者交流会を実施したり、学期ごとにレジンやバースデーカード制作といった保護者向けのイベントを開催することで、保護者同士の交流の機会を設けている。また、昨年度と同様に秋祭りを行うことで、きょうだいも参加できるイベントを開催した。	他事業所で実施したペアトレや保護者交流会での内容についても共有、周知を徹底することで職員の支援の目的や内容についての理解が促進されるように努めています。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100.0%	0.0%	利用児のことだけでなく、きょうだいのことや地域の子どものことも含めて相談の申し込みがあった際には受け入れ、関係機関を案内できるように努めている。また、今年度から開放日を設け、地域交流の一環として未就園のお子さまの活動や、その保護者様の交流の場として提供しております。	継続していきます。
	41	定期的に通信などを発行することや、HPやSNSなどを活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制などの情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100.0%	0.0%	一か月の活動をHPやInstagramで発信したり、研修や行事、外部との連携についても都度発信したりしている。	継続していきます。

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100.0%	0.0%	持ち物の管理のために保護者に記名をお願いし、子ども一人ひとりに名札を用意して確認がしやすくなるように留意している。また、療育の様子として連絡帳アプリに写真を添付する際は、写真上に個人情報が含まれていないかのWチェックを行っている。	継続していきます。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100.0%	0.0%	視覚優位や聴覚優位など、得意な情報処理に合わせて文章を用いたり口頭で伝えたりするなど工夫をしてわかりやすく伝えるように留意している。	継続していきます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待するなど、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100.0%	0.0%	秋祭りを開催して地域住民の方を招待したり、co-opで開かれる笑くぼカフェや和坂マルシェ、明石まちゼミといった地域行事に参加したり、feel開放日を設けたりすることで、地域の方に事業所のことを知ってもらえる機会を設けている。	継続していきます。
非常時などの対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルなどを策定し、職員や家族などに周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100.0%	0.0%	年単位で計画を作成して、職員訓練を行うことでマニュアルを周知するとともに対応法を訓練している。	継続していきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100.0%	0.0%	学期に一度、災害種別を変えて避難場所を設定し、避難訓練を行っている。	継続していきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作などの子どもの状況を確認しているか。	100.0%	0.0%	定期的に服薬やてんかん発作などの子どもの状況を確認し、発作が起きた時に対応できるように掲示などを行っている。また、てんかん発作や嘔吐に関する研修や訓練を毎年実施している。	継続していきます。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100.0%	0.0%	食物アレルギーのある子どもの場合は保護者に依頼し、クッキングでは代替品を持ってきてもらえるようにしている。おやつはアレルギー源になるものを除去したものを用意している。	継続していきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じるなど、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100.0%	0.0%	小集団に関する研修やロールプレイ形式の定期的な勉強会を実施することで、危険な場所や出来事にいち早く気づくことができるようにしている。	継続していきます。
	50	子どもの安全確保に関して、家族などとの連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族などへ周知しているか。	100.0%	0.0%	重要事項説明書を説明することで安全計画への取り組みを周知したり、研修実施後にブログやInstagramにて研修内容の報告を行ったりしている。また、加入している保険などについても契約時に伝えている。	継続していきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100.0%	0.0%	ヒヤリハットが起きた直後に対応した職員が状況をデータでまとめたり、ミーティング内で共有をしたりして対策を話し合う時間を設けている。また、半年に一回振り返りの機会を設けることで、発生・再発防止に努めている。	継続していきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保するなど、適切な対応をしているか。	100.0%	0.0%	一年に2回、虐待に関して職員研修を行い、虐待に関する知識を身に付け、日々ミーティングで共有する中で職員同士で虐待にあたる対応がないか確認し合っている。	継続していきます。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%	0.0%	虐待防止、身体拘束についての委員会を設け一年に一度委員会を開催している。また、必要な場合には保護者に十分な説明を実施した上で身体拘束について承諾を得ている。実際に身体拘束に至った場合は詳細を記録し、委員会などで話し合いを実施している。	継続していきます。